随想

私と趣味

17期　藤田　一枝

昭和45年、母・祖父と相次いで見送り、知人の親戚とお墓があると言う事で、京都市に出て来ました。そして室町三千社といわれる四条烏丸近くの会社に就職、寮生活が始まりました。余暇に二水高校で頑張っていた“カルタ”をと思い、又、始めようとしました。

偶然にも近くに永世名人の方がおられ、練習会場もありましたが「京都の『カルタ』は“つき手”や“はね手”は使わへんのや」と言われて断念し、近所の洋裁研究所に通う事にしました。“趣味と実益”を兼ね、自分の服も増える事やしと考えて始めました。その先生の繋がりから“人生の師”と思える方とも縁が出来ました。

落ち着いて見ると、金沢に居た時は、遠足等以外で名所旧跡を訪ねた事が無かったのに気がつき『観光ガイドブック』を片手に京都をあちらこちらと散策しました。そして、いつの間にか京都にきてから三年の月日が経っておりました。

縁あって主人と結婚し、二女二男を授かり、賑やかな家庭を築く事ができました。末っ子は一才の時、急性リンパ性白血病を患いましたが完治して、今では板前の卵です。私は15年前、“右乳癌”の手術を致しまして、何とか気の晴れる事でリハビリをと思い日舞を始めました。近くに住む、姉のように慕う友達が先生でした。見るのは人一倍好きだったので、少しずつ舞を教わり、体のバランスを調えて来ました。今では傘を差して自転車に乗っています。そして、日舞の先生のお仲間達と老人ホームのイベント等に参加させて貰い『踊る』のと『見られる喜び』で大変嬉しい思いを致しました。その合間には、デパートの手芸コーナー等に通い「リボンフラワー」「フラワーデザイン」を教えて頂き、自己流のアレンジで、ブローチ、ブーケ等を作り、友達にプレゼントしています。ところが、3年前ぐらいから左目が見えづらくなり、年齢的な物と安易に考えていたのですが、網膜の前に膜が張って来て、それが邪魔で景色がゆがんでボヤッと見えるのでした。私はまだフルタイムで働いているので、11月の中旬になんとか2週間の時間を作って、手術に臨みたいと思っています。医師は、個人差があって元のように見えるまで『4ヶ月から2年ぐらいと思って下さい』と念を押しますが、来年には、リハビリの日舞も再挑戦したいし、沢山花束も作って、お友達に喜んでもらいたい。又、近くにある大阪ガス京都本社の「料理教室」や新聞社の「グルメの会」には時間の許す限り参加して、美味しい味を身に付け、いろいろなボランティア活動もできる自分になりたいと願っています。

婦人は『一家の太陽』です！いつも輝いていなければ、家族を見守ってあげねばならない。私は、早くに両親・家族を亡くしたので、子供達には同じ様なさみしい思いをさせてはならないと思ってきました。が、これからは子供達に迷惑を掛けぬようにしなければ？と思っている今日此の頃です。

3つのハードルを越えれば幸せなのか

18期　橋本　　隆

信州諏訪へ親友Fの墓参をした。'69年の第2次安保改定闘争に関わり直接行動をした仲間だった。8年経ち2人の娘さんの成長を確かめ「お父さんのことたくさん話して下さい」こうながされての墓参だった。同行した二水高校、金沢大学同窓のMが今、日経新聞で取り上げている人生3つのハードルなるものを披露してくれた。

①仕事で倒産、リストラもなく、定年まで働けたこと。
②子どもが成人し、かつ定職をもって働いていること。
③家のローンを完済したこと。　　こ

の3つをクリアしておることが「幸せ」の経済的要因なのだそうだ。「守り」に入った老人にふさわしく、一見、説得力のある言葉に聞こえた。しかし、すべてを自己責任にしてしまう今の与党政府のリーダーの言と同一なのに注目してほしい。問題のすり替えがある。今から、この「3つのハードルを越えれば幸せ論」なるものを打ち破ってみたい。

私は高校在学中は、社会の矛盾について考えてはいなかった。唯、大学に進みたいという希望が嫌な受験を支えていた。大学では中国研究会に属し、日中友好、国交回復運動を闘った。公安警察の妨害はあったが小学校教師の職を得る事が出来た。3人の子育てをし、今それを終えた。その間、家族を路頭に迷わすことだけはしたくなかった。とにかくここまでやってきた。定年を一年後に控え、今までの自分の人生を検証し直してみたい。そして、あと20年（？）を弱い立場に追い込まれた人と共に生きたいと願っている。そのためには、私らに影響を与えた識者、先輩の提起する定年後のライフプランを乗り越えたいと思う。例えば、定年後は地域福祉活動の活性化に貢献を勧めよというのは納得出来る。しかし、Iターン、Uターンして、田舎で百姓のまねごとを勧めるのはどうか？生き抜く視点を重視する私の思いとは相当違う。若い頃の自分に還れる訳でもないから、帰郷は前進する生き方ではない。定年後は趣味を楽しむ生き方もある。しかし、こういうことばかりを強調して、我々を毒にも薬にもならないように方向づけていくのは問題がある。

今までは家族のために働いてきた。年金も確保した。これからは自分の技量を必要とする人にささげよと、なぜ識者は激を飛ばせないのか。彼等は今まで真剣に生きてこなかったのではと疑問を持たざるをえない。これでは、人が生き抜く本質を語れないのではないか。釜ヶ崎で日雇い・野宿労働者の生活相談のボランティアをして実感したことが、私の立論のベースである。学歴、技術が無い、仕事の経験も限られている彼等に仕事探しをすすめるが、大変である。しかし、苦難の中で生きてきた人はデーンと構えている。3つのハードルはすべてクリアしていないが、私の人生以上の豊かさを持った人が多い。

最後に同窓会についての私の所感を述べさせてほしい。高卒後、色々な遍歴があり、日雇いや野宿を余儀なくされた同窓がいるかもしれない。参加費が不足しているが、懐かしさに駆られて参加したいと言われたら、喜んで受け入れる度量の大きい関西同窓会であってほしいと願う。

つれづれ

１８期　髙畠美津子

「オッ」ひげが生えてきたゾッ。あまりの忙しさに、数日鏡を見る事もなかった私。威張っていた訳でもないのに……。これは警告かな？　　もう少し余裕を持って家族に接しなければ！「ニコニコ」と！

一度口をついて出た言葉は、消しゴムで消す様に、容易に消し去る事は出来ない。皆を笑顔にする事、自分が笑顔でいる事が、一番必要で大切な事であると頭の中では理解しているつもりが、時として“ジキル”にも“ハイド”にもなる私の心。

５年前、ぬるま湯生活から一転、生活感溢れる日々の連続？　同居した頃は、義父の世話をする私を手伝い、何事にも前向きで、いくつになっても頼もしかった母。旅行、買い物と、仲良し母娘だったはずなのに……。老いは、ヒタヒタと忍び寄ってくる様だ。ちょっぴり、我がままが出、自己中心になり、ああこれが、未来の私なのかしら？

久し振りに同期の友人に会う。旧姓で呼び合うと、顔中が溶けて、笑いがこみあげてくる。お互い世間話をするだけで、聞くだけで、重い荷物をちょっと棚の上に置いた気になる。不思議だ。

母との旅。娘の結婚式で行ったグァム。北海道、東北 etc。そんな楽しい思い出があれば…。時折、写真を眺め、散歩で四季折々の花々を眺め、ゆったりとした気持ちで日々を過ごそう。あせらず、肩の力を抜いて。そうだ、今日は“中秋の名月”そろそろ母の好きなお花を植えて、二人で花壇の手入れでもしようかな。

幸せの形も人生のコースも千差万別。どんな生き方も出来るけど、選択するのは自分自身。今の私が一番気に入っている言葉

一つの言葉にキズついて 一つの言葉に後
悔し 一つの言葉に励まされ 一つの言葉に
涙ぐむ

そして一つの言葉で幸せになれた。

随想

フンケイ
刎頸の友
23 期　西野　十治

あれは大阪万博開催中の昭和 45 年のことでした。新 人大会、春季大会と準優勝を続けてきた我々男子バ スケットボール部は、監督大山修平先生ご指導のも と、本気でインターハイ出場を目指していました。決 勝戦での「打倒・県工」にすべてをかけて、6 月の石 川県総体をむかえました。ところが準決勝で、それま で常に退けてきた小松高校にわずか 3 点差で敗れてし まい、石川県体育館 B コートで、選手全員茫然と立ち 尽くしてしまいました。ゲーム終盤で同点から一気に 6 点リードし、一瞬勝利を信じて守りの気持ちに入っ たのが敗因でした。優勝どころか決勝戦まで進出でき なかった現実を受け止められずに落胆に暮れた。夕方になり、ようやく涙も枯れ果てて、重い足取りで体育館を出た我々3 年生・2 年生の 10 人は何の目的もなかっ た。まるで夢遊病者の群れのように中央公園から香林 坊、片町とさ迷い続け、結局、向かった先は大山先生 が当日宿直を務めていた緑が丘の二水高校の校舎でし た。

同じく落胆の大山先生に気持ちよく迎えて貰い、宿直室で先生を中心に鍋料理を囲むことになり、みんなで手分けして準備をしました。鍋は最悪の味加減でしたが、思う存分友と語り合い、一晩を過ごしました。翌朝、目を覚ますと、朝一番に登校してくる先生方や生徒たちの姿がありました。その流れに逆らいつつ、挨拶を交わしながら急いで帰宅しました。 その後、大山先生も無事退職され、4 年前にお亡くなりになり、今ではこの話題も時効になりました。毎年、旧盆には先生のご自宅の仏壇にみんなで両手を合わせて感謝しております。私はこの準決勝のゲームが 38 年たった今でも、夜中に悪夢として、突然よみがえる事があります。チームメイトが今日でも「刎頸の友」としていられるのは、優勝する事より尊いものを、先生が進退を賭けて教えて下さったからかもしれません。そして、その年、私たち主力 3 人が石川県選 抜チームの一員として選ばれ、秋の岩手国体に出場し ました。最高に嬉しかったのを覚えています。大山先 生、本当にありがとうございました。

母の味
21 期　小菅　美和子

田舎育ちの私は、母の作る漬物が大好きです。畑で作る手作りの野菜です。

春は菜の花（ふきたち）の塩漬け。夏は小なすの糠漬け。秋はきゅうりや瓜の粕漬け。冬は麹で漬けた大根寿し（勿論入れるのはニシン）。そして沢庵と、四季にいろいろと母の味を楽しんできました。母には全く太刀打ちできません。私には子供に残す自慢できるような、おふくろの味なるものが 1 つも無く悲しいで す。

中でも、「おくもじ」（田舎の方言）という、漬物を煮たものがあります。春に漬けた菜の花（ふきたち）を塩出しして煮たものです。栄養価など殆ど無く繊維質だけですが、母の味として大好きです。煮る時それはそれは臭く大変なものですが、母は私に食べさせたく、裏庭にカセットコンロを用意し煮てくれます。年に何回か送ってもくれます。随分と前ですが、粉ミルクの缶に入れて送ってくれました。その時は、ミルク缶がつぶれ中の汁が出て、郵便局で「内容物流出により配達不能」で止められた事がありました。臭くてビニール袋にしっかり入れられ、別室に置いてありました。そんな笑い話もありますが、これからも大好きなものを食べたいので、母にはもっと長生きしてもらいたいと思っております。

- 2007年2月4日（日）11：30～
- 大阪市天王寺区「都ホテル大阪」
- 50人出席

当初は予定されていなかった第 8 回総会が、林良茂本部同窓会会長、梶本逸子校長を来賓として迎え、都ホテル大阪の大和の間で開催された。

中川宗之会長の再選、会計報告の後、「関西同窓会」の名称はそのままで、4 月から本部同窓会関西支部へ移行することが承認された。

林良茂同窓会会長の挨拶

梶本逸子校長の挨拶

懇親会風景

- 2007 年 7 月 22 日（日）11：30～
- 神戸市ポートアイランド「神戸花鳥園」
- 48 人出席

神戸三宮から電車を乗り換えて 15 分もかかる所にもかかわらず、48 人の同窓生が出席し旧交を温めた。

出席者全員の記念写真の後、中川会長による歓迎の挨拶があり、林副会長の発声による乾杯で懇親会に入った。同窓会初参加の人や一年振りの再会でお互いの健康を喜び合う人もいて、色とりどりの花の下、各々が美味しいビールと特製弁当で会話も弾んだ。

そして、2 時間半のパーティーではあき足らず、三宮へ繰り出して二次会、三次会と時間の経つのも忘れて楽しんだ人もいた。

花の下で歓談